No20
2013.8
東邦看護学会
NEWSLETTER

東邦看護の発信拠点としての責任

東邦看護学会理事長　横井 郁子

このたび、齋藤益子前理事長の後任として東邦看護学会の理事長に就任いたしました。前理事長が築き上げてこられました実績と会員からの信頼を踏まえ、本学会のために尽くしてまいりたいと存じますので、皆様のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

東邦大学には多くの看護関係者がおります。医学部の３つの附属病院の看護職、その看護職の就職窓口となる看護企画室、看護職養成の教育部門である看護学部と佐倉看護専門学校、そして、「看護」という専門分野のキャリアを支援する看護キャリア支援センター。それぞれが自分たちの役割を認識し、使命を果たそうとさまざまな取り組みを行っています。一方で「看護」という共通項で常に連絡を取り合い、支え合っているのが東邦大学の看護関係者たちです。時間をかけて作られたこの結束力は他に類を見ないものだと思います。少なくとも７年前に他の組織から来た私にはそう映りました。

この看護の結束力、そして、その力があることで成し遂げている看護をより高めるためには他者の評価を受けることは必要です。そのためには「我々はこのようなことをしている」と外へ発信しなければなりません。発信した内容がときに批判を受けることもありますが、そのことも含めて多くのことを学ぶ機会となります。各々の取り組みを発信し他者と討議する場を持つための発信力。東邦看護メンバーはこの発信力が少し弱いように感じています。それは我々のキーワードである「より良き医療人」「心により添う看護」を誰にでもわかる形にすることは容易なことではなく、それが発信を遅らせているのかもしれません。

そんな発信の手段のひとつが研究であり、研究成果を発信する場が学会です。東邦看護研究会が学会となったということは「東邦看護の発信の拠点となる」と宣言したことなのだと個人的に解釈していました。

東邦看護学会は東邦と名前はついていますが、東邦大学から独立した組織です。研究会から学会運営に切り替えたことで、より「外」を意識するようになりました。そして、適切な発信ができるよう会員の研究支援に齋藤益子前理事長はご尽力されました。これは重要な事業であり、引き続き取り組んでいかなければと思っております。そして、上述しました東邦看護の結束力をもっと発信したい、しなければと考えています。部門を越え、役職を越えた結束力が東邦看護の特色であると実感しています。この結束力はこれからの医療により求められるものです。高齢社会となり患者の個別性が際立ち、患者を支える家族や地域の形も変化しています。そのような多様な対象、社会状況に対してどのように看護実践を変化させ提供していくか。さまざまな場で取り組む看護の力が結束しなければ患者の心からの「ありがとう」を得ることはできないでしょう。そのようなことを踏まえ、学会での今後の活動として共同研究、連携実践の更なる推進を考えております。

今後とも本学会に対する皆様方のご支援とご協力をお願い申し上げます。

東邦看護学会委員会の紹介

学会誌編集

村上　好恵　東邦大学看護学部看護学科
山田　　緑　東邦大学看護学部看護学科
橋本　　裕　東邦大学医療センター大森病院
都橋　　薫　東邦大学法人本部看護企画室
角田ますみ　東邦大学看護学部看護学科
美甘　直美　東邦大学看護学部看護学科

活動内容

今年度、編集委員のメンバーが少し交代となりました。宜しくお願い致します。

さて、編集委員長を拝命し、論文を投稿して頂き学会誌を作成していくことの難しさをあらためて感じております。自分もそうですが、学会発表は行っても、その次に論文として完成させるためには、かなりのエネルギーを要します。12月の学会発表を終えると、達成感や開放感から、翌年の7月15日に向けて執筆するというのは遥か彼方のこととなってしまうのではないでしょうか。せっかく取り組んだ研究ですので、全国の看護職に東邦看護の素晴らしさをアピールしてください。編集委員会も論文執筆の支援を行っていきたいと思いますので、ぜひご相談ください。

研究活動支援

福田美和子　東邦大学看護学部看護学科
神部　雅子　東邦大学看護キャリア支援センター
三條真紀子　東邦大学看護学部看護学科
富岡　由美　東邦大学看護学部看護学科

活動内容

研究活動支援委員会では会員の皆様が行っている研究が発展できるよう以下２点のサポート活動をしております。第１は、研究奨励金です。研究に必要な経費を研究費として１題につき最大30万円まで助成するものです。研究費は文献の取り寄せや図書の購入、測定に必要な器具の購入、学会発表のための旅費などに使えます。毎年7月末日に研究計画書を提出していただき、奨励に値すると審査で判断されたものに拠出していますので、応募をお待ちしています。第２は、学術集会賞の表彰です。学術集会で発表された演題で発展的なものに対し、総会で金一封を添えて表彰しています。学術集会にエントリーした演題は、発表形式を問わずすべてが対象です。発表された方は是非総会にも出席ください。

広報

野崎真奈美　東邦大学看護学部看護学科
畑中　晃子　東邦大学医療センター大森病院
山城　久典　東邦大学看護学部看護学科
遠藤　敏子　東邦大学医療センター大橋病院
高橋　初枝　東邦大学医療センター佐倉病院
安岡　砂織　東邦大学看護学部看護学科

活動内容

広報委員会は会員内・外に広く東邦看護を発信していきます。定例として、毎年８月と３月にニュースレターを発行しています。会員の皆様に学会活動に関する様々な情報を発信しています。紙媒体ですので、職場で見かけた際には是非手にとって、気軽にページをめくっていただければ幸いです。

また、ホームページを適宜更新しています。東邦看護学会の“いま”を紹介できればと思っています。フレッシュな情報をお届けしようと心がけていきます。アクセスしやすいページ作りにも尽力して参ります。

ご意見・ご感想・ご質問は遠慮なくお知らせ下さい。皆様の交流のきっかけにしていただければありがたいです。

庶務

近藤　麻理　東邦大学看護学部看護学科
出射　明子　東邦大学法人本部看護企画室
寺口　恵子　東邦大学医療センター佐倉病院
大宮　朋子　東邦大学看護学部看護学科
山本　法子　東邦大学看護学部看護学科

活動内容

東邦看護学会の事務局には庶務と会計が配置され、庶務担当は総勢５名がその任にあたっています。平成25年５月10日には、本年度第１回目の理事会と評議員会を開催しました。理事会は、年度内の11月と２月にも開催されます。このような会議の準備と当日の運営、総会の開催などを広く任されています。また、本年度より学会費を皆様一人一人での振り込みとさせていただきました。ご入会・ご継続手続きは、順調にできましたでしょうか。本年度より新メンバーでスタートしていますが、不慣れなことから皆様にご迷惑をおかけすることもあるかと思います。どうぞ暖かく見守ってください。

会計

菊地　京子　東邦大学医療センター大橋病院
鈴木　良美　東邦大学看護学部看護学科
海老原樹恵　東邦大学看護学部看護学科

活動内容

平成14年度「東邦看護学会」の会員は1638名となりました。年々会員が増加していることを大変嬉しく感じています。昨年、会員名簿管理システムを導入し、今年度は会費納入方法を自動振込みに変更しました。多くの方の入会をお待ちしています。皆様の会費を大切に活用させていただきます。

郵　便　振　替：ゆうちょ銀行　蒲田支店
口座記号番号：００１３０－３－６０８４４５
加　入　者　名：東邦看護学会

日常の看護実践を通して“看護の力”について考える

第13回東邦看護学会学術集会　大会長　**遠藤 英子**
（東邦大学看護学部教授・健康科学部〔仮称〕設置準備室室長）

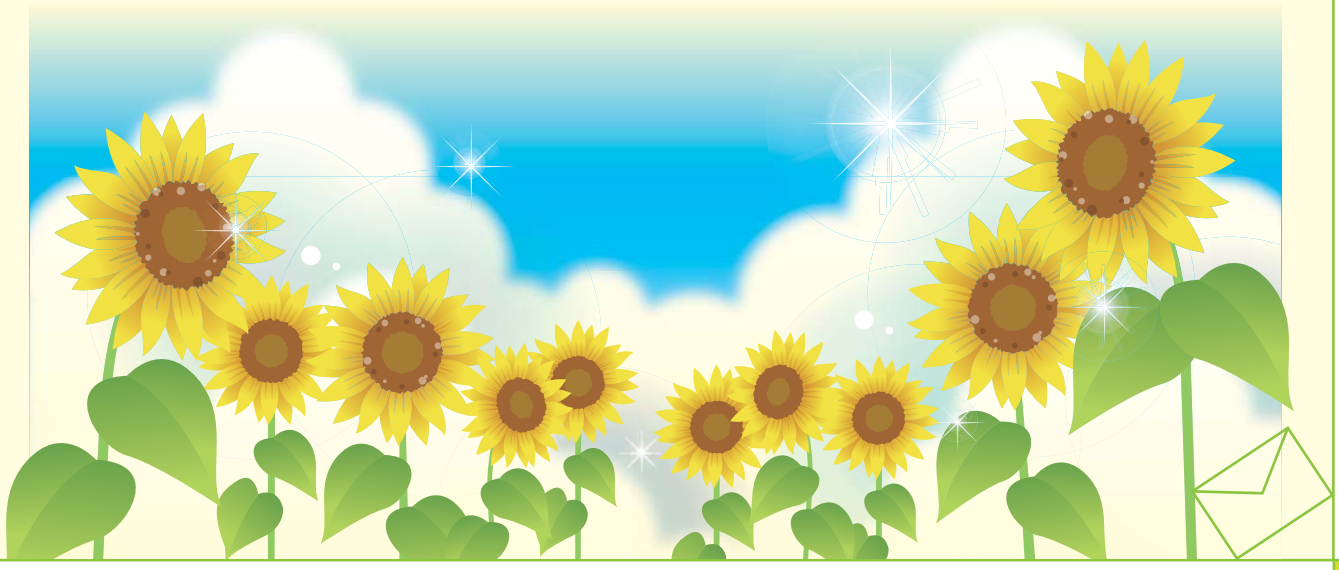
第13回東邦看護学会学術集会が、会員の皆様や関係者の皆様のご支援・ご協力のもとに、東邦大学看護学部で開催できますことを感謝申し上げます。参加者の皆様との交流を通じ、看護学の発展の場になることを願って準備を進めております。

平成37年には後期高齢者は人口の3割を占め、医療・福祉の現場はその現状に対応せざるを得ない状況となることが推測されます。その中で社会が求める看護へのニーズは多岐に及び、その期待は量・質ともに高まっています。このような社会の変化を捉え、前回の学術集会は急性期医療を提供する病院と地域との看護の連携をテーマに開催されました。それを継いで、本会では連携を支える看護師一人ひとりの“看護の力”について皆さんと考える機会にしたいと思い、大会テーマを『**今、もとめられる看護の力とは**』に決定しました。

本大会では看護の本質である人間の基本的欲求充足への援助に立ち戻り、“食べる”ということに焦点をあて日常の看護実践を振り返ってみたいと思います。「食べられるのに食べたくない」、「食べたいけど食べることができない」患者に対し、欲求充足のために親身に働きかけ、家族も共に含めた援助をどのように考え、実践したら良いのでしょうか。それは病院で治療を受ける患者･家族に留まらず、在宅医療を受けながら療養生活を営んでいる方々への援助にも共通し、今も昔も変わらない看護実践上の大きな課題です。

そこで、特別講演に愛知県看護大学看護学部の鎌倉やよい教授をむかえ、「摂食・嚥下のメカニズムとその援助方法の基礎知識」についてお話しいただきます。さらに、シンポジウムでは“口から食べる”援助を日々実践している方々との対話を企画しました。

東邦看護学会の会員相互の研鑽と交流をはかり、看護の質の向上と保健･医療・福祉に貢献することを目的としてきた学会も、今回で13回を迎えます。試行錯誤を重ねつつ、日々様々な知識や技術を統合して質の高い看護を対象者に提供したいと願う看護師の営為が、困窮した病者にとって大きな力となることを望んで、大会プログラムを考えてみました。今一度、日常の看護実践を看護師個々のレベル、チーム医療のレベル、基礎･継続教育のレベルで振り返り、“看護の力”について再発見ができたら幸いに思います。



第13回東邦看護学会学術集会

メインテーマ
今、もとめられる看護の力とは

日　時　平成25年12月21日（土）
9:15開場
会　場　東邦大学看護学部

時　間	プログラム
9:15	開場・受付開始
10:00	開会の辞
10:05～10:30	会長講演　**今、もとめられる看護の力とは** 演者：遠藤英子
10:40～12:35	一般演題発表（口演・示説）
13:00～13:30	総会・学会賞表彰
14:00～15:10	特別講演　仮テーマ　**摂食・嚥下のメカニズムを踏まえた援助の再考** 演者：鎌倉やよい（愛知県立看護大学看護学部 教授）
15:15～17:00	シンポジウム　仮テーマ　**摂食・嚥下にかかわる諸問題**
17:00～17:10	閉会の辞

学術集会サロン開設について

研究活動支援委員会

研究活動支援委員会では昨年度から学術集会において研究相談コーナーを開設しています。次年度研究当番がまわってくるがどのようなことを研究したらよいのか困っている、やってみたことはあるがどのように進めたらよいのかわからない、文献を検索するとしたらどのようなキーワードで検索したらよいのだろうか、論文を投稿するためにはどのように論文を作成していけばよいのかなど、様々な相談を受け付けます。また研究に役立つ図書など稲垣書店のご協力をいただき販売コーナーも併設します。研究発表後に発表後継続研究をするのか、その段階で論文として投稿するかなどメンバー間で相談する場としても活用できるよう自由に話し合える場所も作っております。今年度は看護学部のアスクレピオンで開催しますので、どうぞお立ち寄りください。

看護キャリア支援センター

本学術集会で看護キャリア支援センターのサロンを開設いたします。東邦大学だからできる看護キャリア支援っていったいなんだろう。本年度から新メンバーになり日夜悩んでおります。そこで東邦看護の関係者が多く集まる学術集会の場をお借りして、直接ご意見を伺いたく、学術集会でのサロン開設をお願いしました。「センターって何？」から、「あの研修は・・」「こんな事はできないの？」等々ご意見をいただきたいと思っています。もちろん、看護職としての今後について、仕事と生活－子育てや介護－との両立などの悩みにもご支援できると思います。ぶらりと寄っていただけると幸いです。

NEWS LETTER
ニュースレター事務局
〒143-0015　東京都大田区大森西 4-16-20
TEL 03-3762-9881
FAX 03-3766-3914